

田代環境プラザの職員さんに聞いてみました

これからの田代地区は？

市民のみなさまにも田代地区を知ってもらい、その残った自然を活かすために何が出来るか、一緒に考えてほしいと思います。

取り組み

1 「田代の郷」が整備された時に、自然を守るためにどんな工夫がされたのか、現地を歩いたり資料を見ながら紹介していこうと考えています。

取り組み

2 小学生や小さなお子様がいるご家族を対象に、一年を通して、田代地区の自然や生き物を知り、自然と人々が共存できる町づくりを学べるプログラムを行っています。

ぜひ、田代の自然を見に来てください！



田代地区の取り組みを知って

田代の自然を知り、考えたことは？

田代の自然を守る人々の話を聞いて

自然や生き物と私たち人間は、どのように付き合っていくことが必要でしょうか？

自然と人の共存を考えよう 島田市田代の生き物と人々



1997年の様子



2004年の様子



2021年の田代地区

クマタカ

ミツマタ
(紙の原料)

ゲンジボタル

イモリ

東海道新幹線

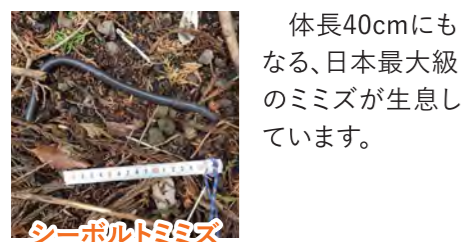
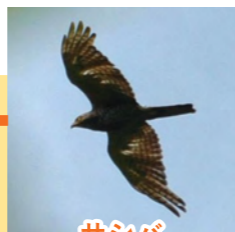
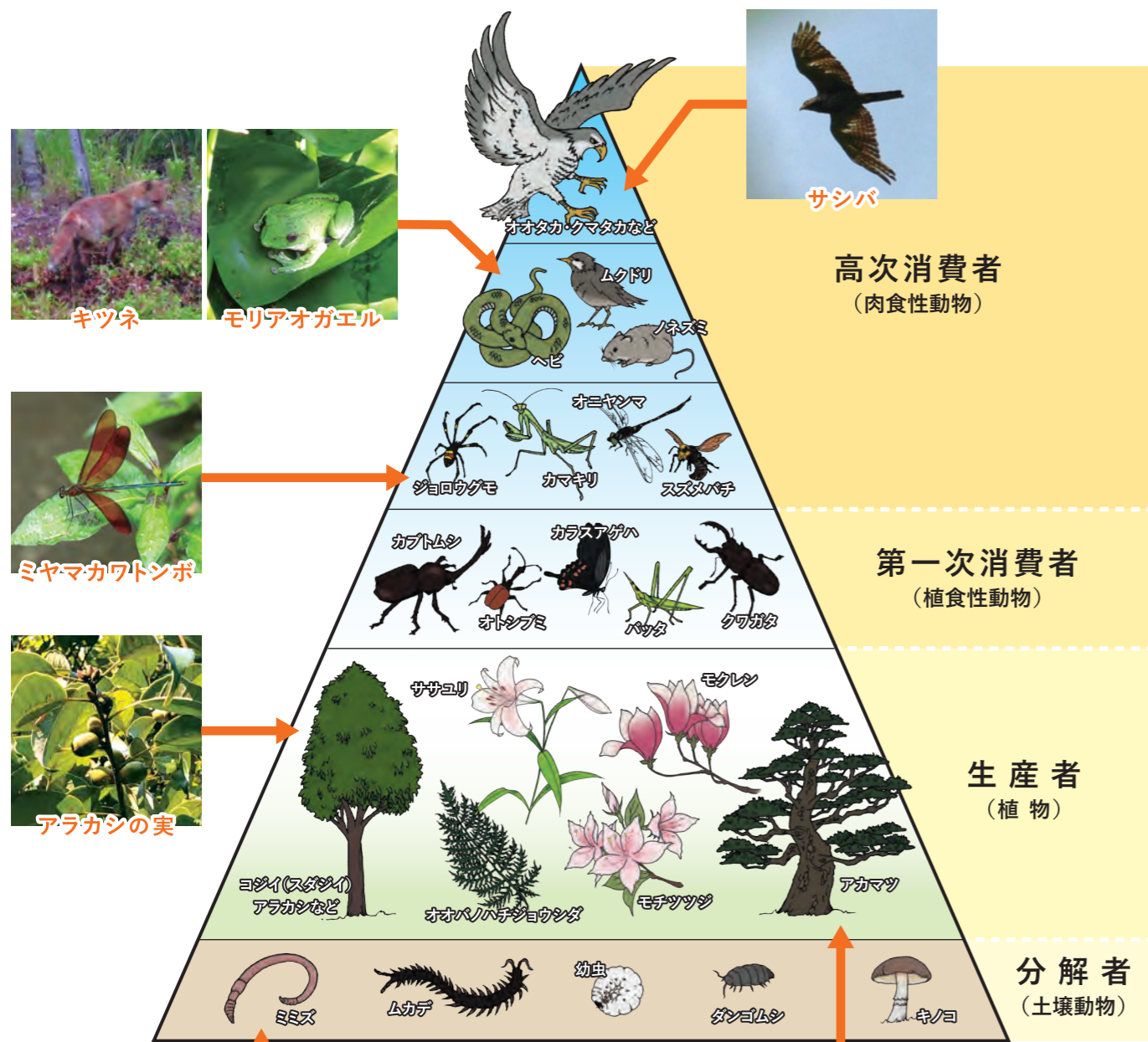
東海道新幹線

島田市田代地区は、名前からわかるように稲作を中心に行ってきましたが、紙や油も作っていたとみられます。1945年以降、五戸、三戸と住む人は少なくなり、1996年の新東名高速道路工事に伴う埋め立て工事のため、全戸移転となりました。1996年から、その工事に伴い、

地域の人や市の職員の方々も交えて埋め立て後の土地利用や自然の保全・復元を考えた調査・会議も開かれました。2006年に田代環境プラザ(焼却場)ができたのを始めに、温浴施設・霊園・大規模太陽光発電所ができ、2020年には、「島田ゆめ・みらいパーク」ができました。

田代地区の生態系と貴重な生物

新東名高速道路の事業のために自然調査をしたところ、1997年オオタカの巣を発見、2002年には工事現場でクマタカの巣が発見されるなど、田代地区は、豊かな自然があり、ワシタカ類を中心とする生態系が保たれ、様々な貴重な動植物の存在も確認されました。また、モクスガニやヤマトヌマエビなど、海との連続性を示す種類も確認されています。



体長40cmにもなる、日本最大級のミミズが生息しています。



環境省から準絶滅危惧種に指定されているエビネなど、希少な植物が生育しています。

田代の生態を守る工夫や努力

田代地区の埋め立て工事は、本来もっと広い範囲で行われる予定でした。しかし、田代地区の豊かな自然を残すため、沢地とその周縁のいくつかは埋め立てせずに完全に残すことにしました。また、自然に近い形の水路や動物専用の橋(移動路)を作るなど、生き物たちが生きていくための工夫をしていくことで、人と他の生き物の共存を図っています。

1 生き物のために沢を埋めずに残しました。

2 埋立地の有効利用のため、太陽光発電所を設置。

3 田代環境プラザでは、ゴミの焼却だけでなく、施設見学を通して、ゴミの減量や環境保全に取り組んでいます。

6 自然の川のように水路に土をためるなど、生き物が住める工夫をしています。
一部の水路には、登り坂を用意して、小動物の落下による死亡を防止しています。

7 水田などの湿地が埋め立てられてしまうため、新しい池を作りました。今でも、モリアオガエルが産卵しています。



4 島田ゆめ・みらいパークは、幼児から年配の方まで安心して遊べる公園です。

5 動物専用の陸橋(移動路)を作りました。

会議風景



人と自然・生き物が共存していくために、2021年まで「静岡県ワシタカ類保護対策検討委員会」と共に話し合い、田代地区の環境への影響を少なくしようとしてきました。

例えば 小鳥の衝突を防ぐために、田代環境プラザでは見学通路以外のガラス設置を減らしました。

施設管理の一環として草刈りなどを行うほか、外来種の影響などにも注意を払っています。